

## PC 技術の確かな継承のために



武 藤 和 宏 \*

公共事業を取り巻く環境は大きく変化している。近年の公共調達制度は、透明で競争性の高い市場環境を目指し、多様な入札・契約制度の導入等、さまざまな施策が講じられ、「公共工事の入札および契約の適正化の促進に関する法律」や「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の施行など、その理念に沿った改革が始まっている。しかしながら建設市場が縮小するなかで競争が激化し、理念とは大きくかけ離れた状況が顕著になり、品質への懸念、労働条件の悪化等の問題が生じているのが現状であり、関係者の間にも戸惑いが広がっているように思われる。

プレストレストコンクリート（PC）建設産業が今後引き続き社会に貢献していくためには、高品質で耐久性の高い構造物を適正な価格で供給できることが必要である。

わが国で最初に架けられた PC 橋は七尾市の長生橋である。昭和 26 年に竣工したこの橋は、河川改修により残念ながら平成 13 年に架け替えられたが、七尾港にほど近いところで 50 年間供用された後もきわめて健全な状態を保っていた。満潮時には海水面が桁下に接するという非常に厳しい環境下でも、塩化物イオンは桁下面から 37 mm の位置に配置された鋼材には達しておらず、供用 200 年後に初めて鋼材表面に達すると推定された。塩害による劣化が各地で報告されていることを思えば、この橋の施工は驚異に値する。保存されている長生橋のコンクリートの断面は非常に緻密である。

PC 橋は鋼橋に比べて現場作業が多く、品質や生産性の向上を図るうえでは、技術の研究・開発は勿論であるが、現場の施工の軸となる人材の育成がきわめて重要になる。

PC 建設現場においては、優れた技能とマネジメント能力をもつ基幹技能者が現場の実態に応じた施工方法を提案し、現場の技能者に適切な指導、統率

を行い、生産性の向上、品質の確保、コストの削減、技術者の負担軽減が図られている。

長年培われてきた PC 建設工事特有の技能を継承していくために、プレストレスト・コンクリート工業協会が創設され、PC 基幹技能者の育成と PC 技術の継承を図っている。現在の認定者数は 350 名程であり、今後さらに積極的に育成をしなければならないが、彼らが施工現場に配置されることは、PC 構造物の品質向上に大いに寄与することになる。

この他、プレストレストコンクリート技術協会では毎年、「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」、「プレストレストコンクリート技術講習会」等を行い、技術の研鑽を重ねている。また PC 技術者の育成を目的とした「プレストレストコンクリート技士」も登録者数が 6 600 人程となっている。

（PC は 20 世紀最大の発明）どこかで聞いた記憶があったので、ネットで検索してみたら、「・・・やはり 20 世紀最大の発明は PC ・・・」と出てきた。こんなに評価されている・・・と思いきや、パソコンの PC であった。しかし当方の PC も立派な「20 世紀最大の発明」である。半世紀前にあれだけの品質の橋を造ったのである。過酷な環境に耐えうることは実証済みである。これをさらに発展させ、企業の社会的責任を全うするためには、不断の技術研究・技術開発の力の保持と、それを実行に移せる人材の育成が不可欠である。

今後は既存ストックの維持・更新が増えてくる。これには新設よりも高度で多様な経験と知恵と技術が必要になる。

これからの技術の担い手たちがしっかり育つように、産・官・学の関係各位の力の結集が必要だと思われる。

\* Kazuhiro MUTOH : (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 専務理事